

「笠郷地域創生自治町民会議」だより

各部会報告

笠郷地域創生自治町民会議会長 細川 一

1. 笠郷小学校クリーン活動実施

教育・文化・商工部会

コロナ禍のため昨年中止しましたが、学校グラウンド周辺・校庭のクリーン活動を、『8月22日(日)午前7:30~10時頃』まで実施しました。PTAではコロナ禍で、人数を確保できなかったの

- ・笠郷小学校 PTA 親役員 約5名
- ・笠郷自治町民会議(環境・美化部会、サポータ含)約10名
- ・笠郷地区消防団(PTA 親含) 約20名
- ・笠郷地区体育委員会(PTA 親含) 約5名
- ・笠郷地区環境保全協議会 2名
- ・笠郷小学校 6名

の協力により、グラウンドの北・東・南側3辺の側溝掃除、グラウンド草刈り、庭木の手入れと草取り等まで行うことができました。一部業者の方には重機、トラック等を提供して頂いたので労力を省きスムーズに進むことができ感謝します。消防団の皆さんにはグラウンド周囲3辺の側溝のフタ上げ降ろし、泥のかき出し運搬等で全面的に協力して頂きました。校長先生方もクリーン活動に参加された皆さんに感謝されていました。



側溝にたまった泥・砂の除去と搬出



側溝清掃後

5. 食用ひょうたん栽培(大垣養老高等学校瓢箪漬物加工支援)御礼

教育・文化・商工部会

ひょうたん果実の大垣養老高等学校への供給 8月30日(月)で終了します

今年のひょうたん栽培は夏の長雨の影響で生育が悪く出荷量は今年の1/3以下でしたが、栽培ご協力頂き有難うございました。大垣養老高校で漬けている物もあるようで、そのうち「一度試食して頂きたい」との申し出がありますのでお待ちください。笠郷自治町民会議からもひょうたん栽培御協力御礼をしたいと考えています。

2. 情報伝達訓練

安全・安心部会

各地区の「連絡網」を使って、緊急情報を迅速で正確に末端の全世帯まで伝達するために、電話を利用した情報伝達を主とした防災訓練を行い、意識の向上を図ると共に、連絡網の改善を目的とします。

笠郷地区 情報伝達訓練 10月10日(日) 早朝~

- ① 笠郷地区区長会長からスタートしますが、各地区の実態に合わせ伝言内容は変更されても構いません。
- ② 対応できる区であれば、要支援者を末端に含めた経路で伝達訓練願います。

3. 笠郷地区3世代絵手紙交流会 (CCnet放送予定)

健康・福祉部会

昨年から引き続きコロナ禍のため、高齢者の皆さんが訪問する形での園児との交流会は今年も難しいので、昨年同様園児の皆さんにA4用紙に敬老お祝いの絵をかき額縁にして、高齢者の方々にお渡しします。高齢者の方々へは、笠郷地区老人クラブの協力により配布予定です。(製作枚数が200枚と限りがあり、高齢者の皆さん全員には行き届かないのでご理解願います。介護施設の「柚子養老」と「天音の里」にも飾って頂く予定です。)

CCnet放送中に、船附こども園・下笠保育園の園児が敬老の日に向けて、お祝いと歌を披露してくれる予定です。

4. 笠郷地区クリーン活動 (CCnet放送予定)

環境・美化部会

今年も昨年に引き続き笠郷地区の通学路を重点にしたクリーン活動を行います。

笠郷地区クリーン活動 11月7日(日) 午前8:00~

(予定)

- 9月 各地区集合場所、清掃場所を決定。子ども会の参加者募集
- 10月 一般参加者募集(区によって全戸参加地区あり)、未就学児は親子で参加願います。
(未就学児でもお菓子を差し上げますので、ご家族で参加ください)



(裏面あり)

(裏面あり)

『デルタ株とブレークスルー感染』 Q & A

流行が拡大すれば、次々に変異が起これ続ける

現在では、デルタ株にほぼ置き換わってしまい、その結果、発病や感染を防ぐ効果が 64%まで下がってしまいました(一方、入院を防ぐ効果は 93%と高いレベルを維持しています)(イスラエル報告)。

ウイルスの変異はある一定の確率で生じ、流行拡大によって感染者が増えれば増える程、変異を繰り返して行きます。その中で感染力が拡大したり、ワクチンによる免疫から逃れる性質を獲得したりした変異株が生じると、やがてはそれに置き換わってしまい、コロナとの戦いはいつまで経っても終わりません。

厄介な変異株の出現を食い止めるために最も有効な手段は、ワクチン接種を含む感染予防対策を徹底し、流行の拡大を防ぐことです。

接種後、長い時間が経過すると増えていくブレークスルー感染

実際に罹ってしまったたりワクチンを接種したりすることで、免疫を獲得して抗体ができて、使う機会がなければ段々抗体の量は少なくなっていく。抗体の量が少なくなっても、感染後は直ちに作り出すので重症化を防ぐのには間に合うことが多いのですが、発病や感染を防ぐのには間に合いません。

先に紹介したイスラエルにおけるワクチンの有効性(発病や感染そのものを防ぐ効果)の低下は、デルタ株に置き換わってしまったことに加え、2回の接種が終了してから半年前後経ってしまったことも影響していると思います。そこでイスラエルを含む幾つかの国々では、ブレークスルー感染が増えて来たことを受けて3回目の接種を始めています。

ブレークスルー感染は軽症です

これまで述べましたように、ワクチン接種を2回済ませた人のブレークスルー感染はデルタ株に置き換わった後で増えて来ましたが、ワクチンによって重症化を防ぐ効果は高いレベルで維持されています。米国 CDC のデータに基づき「ワクチン接種を済ませた人が、新型コロナウイルスのブレークスルー感染のために亡くなる恐れは 0.001%未満」と報告されています。

ワクチン接種率を高める意義

新型コロナウイルス感染症で重症化する人が病院に溢れてしまうと、本来であれば入院して十分な治療を受けることで救える命が失われる恐れがあります。また、病院が患者さんで溢れてしまうと、その他の病気や怪我で緊急に対応しなければならない患者さん達の命も危機に晒されます。しかし、多くの人たちがワクチンを接種していれば、医療は本来の機能を維持することが出来ます。

また、ワクチン単独で流行を食い止めることは出来ませんが、他の感染対策と一緒にワクチン接種が進んでいくことによって、社会の中での流行を食い止めることにも大いに役に立ちます。

ですから、ワクチン接種は非常に重要です。

ワクチン接種した人もこれまで通りの感染対策を

ワクチンを接種していれば、ブレークスルー感染が起こればほとんどの場合、重症化を免れます。しかし、感染することはあるし、感染しても発病しないことも多いので自分ではそれと気付かないままです。

もしマスクをしないで会話をしたり、3密の場所に入ったりすると、他の人にうつしてしまう恐れがあります。ワクチン接種が十分に進んでいない間は、その人達に感染が広がらないように、これまで通りの感染対策を続けていきたいです。